
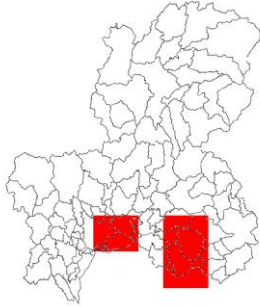


ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i> L.	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)		タヌキモ科
選定理由	生育地が極度に限定されているうえ、個体数が減少している。	写真(岐阜大学教育学部標本室) 
形態の特徴	根はない。茎は長さ5-25cm。葉は二叉状に分岐を2-3回繰り返すが、分岐の位置は不特定で、樹木の小枝の様な形になる。捕虫囊をもつ。花茎は長さ5-25cm。花冠は淡黄色か白色。	
生態的特徴	湿地、湖沼、溜池などに生育する。水深のある場合は浮遊するか、底の泥中に茎が埋まって固定する。花期は8-9月。	
分布状況	北半球に広く分布し、日本でも全国に見られる。岐阜県では県南の南部に知られている。	
減少要因	開発による湿地、湖沼、溜池の埋め立てと水質の悪化。	
保全対策	生育する湿地と溜池の保全、及び水質の改善。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘